

目 標	知識及び理解						思考力、判断力、表現力						学びに向かう力、人間性の涵養															
	知識			理解			応用	分析			統合			評価		受容注意			反応			価値付け			価値の組織化		価値あるいは価値組織による性格化	
	具体的知識	方法手段についての知識	概括や抽象についての知識	言い換え	解釈	推量		要素の分析	関係の分解	組織原理の分解	固有の伝達内容の創出	計画、実施企画の創出	抽象的な関係性の導出	内的証拠による判断	外的規準に照らしての判断	現象や刺激の意識	進んで受容	統制的選択的注意	黙認的反応	積極的反応	満足して反応	価値の受容	価値の選択	価値を身に付ける	価値の概念化	価値体系の組織立て	一般化された態度	人格化

音楽科 の目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質や能力を育成する																									
	音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、						音楽に対する感性を豊かにし、 ・音楽の豊かさや美しさに対する感性を養う ・音や音楽を知覚する能力を育成する						音楽を愛好する心情を育てるとともに、 ・音楽のもつ価値をよさとして感じ取ったり理解したりすることによって、一人一人が自分にとっての音楽の意味を実感し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育む													
	・音楽の構成要素と表現要素を知覚する						音楽の諸要素の働きによって生まれる曲想や美しさを、イメージをもって感じ取る ・音楽から豊かさや美しさを見つけ出したり、それを表現するための工夫を重ねたりする ・音楽に積極的に働きかける						音楽に対する感性を豊かにし、 *知性面と感性面の調和がとれた人間性を培う ・音楽の豊かさや美しさに対する感性を養う ・感じる ・美しい音、豊かな響きの意味付けをする ・音楽の豊かさや美しさを一人一人がそれぞれの感じ方で味わう 豊かな情操を養う *人間のあらゆる精神活動を根底から支え、それらを価値ある経験として統一させる ・個人が自己の感性を働かせ、素材を調和的につくることによって生み出される美しさによって価値感情をもつ													
	①基礎的な表現の技能を身に付け、 ②表現の技能を伸ばし、						①音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、 ②楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、 ・音楽に対する感性を培う ・生徒一人一人が音楽の豊かさや美しさを感じたり発見したりする ・表現したい内容をイメージする ・音楽に内在する諸要素への感受性をもつ 創造的に表現する能力を育てる。 創造的に表現する能力を高める。 ・生徒が自分なりのイメージや意図を表現するための技能を身に付けていく ・イメージをさらに膨らませる ・表現に工夫を加える						①音楽活動の楽しさを体験することを通して、 音や音楽への興味・関心を養い、 ・音や音楽とのかかわりを通して、自分にとってそれらがどのような意味をもつのか考える ②音や音楽への興味・関心を高め、 ①音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 ・音楽を生活の中に取り入れ、明るく豊かな社会生活を送る ②音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。													
第1学年 ①, 第2学年 及び 第3学年 ②)の 目標	①多様な音楽に興味・関心をもち、 ②音楽に対する総合的な理解を深め、 ・音楽の構造的な側面を知覚し、感性的側面を感じ取る						①幅広く鑑賞する能力を育てる。 ②幅広く鑑賞する能力を高める。 ・貴重な文化遺産としての音楽を尊重する態度を育てる ・構造的側面と感性的側面に対する感受性を豊かにしながら、文化的側面について理解する						②多様な音楽に興味と関心をもち、音楽活動の楽しさを体験することを通して、													

表現の 内容構成	音楽の諸要素が楽曲をどのように構成し、 ・音について知る ・音の響きを注意して聴く ・音の特性や音楽の仕組みを知る	どういった表情を生み出しているか知り、その背景を知ることによって、 ・音を関係づける原理や要素、すなわち音楽の仕組みを知る ・曲の中で音楽の構成要素や表現要素がどう働き、それらが関連し合っているのかということを知覚する	楽曲に対するイメージを 発展させる ・言葉や歌詞を生かした歌い方を 工夫する ・特質を、イメージをもって 感じ取る ・イメージや感情を一層 広げる ・イメージや感情を一層 深める 自分で音を出す際に、体や楽器を操作しコントロールする技能を身につける ・発声や楽器の取り扱い、読譜などについての諸技能を 獲得する	自分と楽曲の接点を見いだす ・音楽によって引き起こされた自分のイメージや感情がどのようなものであるかを 意識する ・曲を表現するとき、曲を支えるものに目を向け曲のとらえ方や表現を 深める																						
表現 第1学年 ①, 第2学年 及び 第3学年 ②)の 内容	・歌詞を読み、言葉の意味や内容を 理解する ・歌詞の構成や背景を 調べる ・言葉のもっている抑揚やアクセント、リズム、語感にかかわる特性を 把握する ・独唱曲を原語で歌う場合には、言葉の特性に 配慮して表現する	①・曲種の時代・地域に基づく特徴や、様式による違いをとらえる ②・地域や時代の特徴を捉えて曲種にふさわしい声を理解する ・自分は何を美しいと感じているのかを理解する	ア①歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫する(歌詞の内容や曲想を感性的、直感的にとらえる) ・歌詞の内容や曲想を感じ取る ・自己のイメージや感情を 膨らませる ・表現を 工夫する ・歌詞の構成や背景をもとにして曲を 聴いたり 旋律をとらえたりする ・曲のもっているよさや特徴に 気付く ・表現のための工夫を生む ・自分の楽曲のイメージを 歌唱表現する イ①曲種に応じた発声により、言葉の表現に 気を付けて歌う ・本来の持ち味がよりの確に表現できる発声に 気付く ・曲種に応じて生徒自身がよりふさわしいと感じる声の出し方や音色で 歌う ・適切な声の イメージをもつ ・その音楽を楽しんできた人々がどのような声で歌ってきたか 聴く ・感じ取ったイメージで自らも 歌う ・発音における子音・母音の取り扱いや濁音・鼻濁音の強さの程度などの表現の仕方を 工夫する ・音楽の流れにのせてどう生かして表現し	②歌詞の内容や曲想を 味わい 、曲に ふさわしい 歌唱表現を工夫する(曲のよさや特質がどこにあるか見いだす) ・自分がなぜこういうイメージをもったのかという根拠を、歌詞夜曲の仕組みの中に 探す ・曲特有の 味わいをつかむ ・曲にふさわしい表現がどのような表現であるかが 分かる ・曲にふさわしい歌唱表現を 工夫しようとする ②曲種に応じた発声により、 美しい 言葉の表現を 工夫して歌う ・世界の多様な様々な歌唱曲にふさわしい表現の声の出し方や音色を 工夫する ・歌唱曲に対して、生徒自身がふさわしい声の出し方や音色を感じ取って 歌う ・自己の中に イメージを作って歌う ・言葉を 美しいと感じる ・こうすれば言葉をより美しく表現できると言うことを 意識する																						

目 標	認 知											情 意																												
	知 識			理 解			応 用	分 析			統 合			評 価		受 容 注 意			反 応			価 値 付 け			価 値 の 組 織 化		価 値 あ る い は 価 値 組 織 に よ る 性 格 化													
	具 体 的 知 識	方 法 手 段 に つ い て の 知 識	概 括 や 抽 象 に つ い て の 知 識	言 い 換 え	解 釈	推 量		要 素 の 分 析	関 係 の 分 解	組 織 原 理 の 分 解	固 有 の 伝 達 内 容 の 創 出	計 画 , 実 施 企 画 の 創 出	抽 象 的 な 関 係 性 の 導 出	内 的 証 拠 に よ る 判 断	外 的 規 準 に 照 ら し て の 判 断	現 象 や 刺 激 の 意 識	進 ん で 受 容	統 制 的 選 択 的 注 意	黙 認 的 反 応	積 極 的 反 応	満 足 し て 反 応	価 値 の 受 容	価 値 の 選 択	価 値 を 身 に 付 け る	価 値 の 概 念 化	価 値 体 系 の 組 織 立 て	一 般 化 さ れ た 態 度	人 格 化												
	<p>キ①音色, リズム, 旋律, 和声を含む音と音とのかかわり合い, 形式などの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動を通して音色(声や楽器の固有な音色・曲種に応じた声の表現・楽器の奏法・組み合わせ・変化・豊かな響き), リズム(拍節的/拍子・リズムパターン・拍子のまとまり感・リズムパターンの反復・リズムパターンの変化・表現効果)(非拍節的/自由な動き), 旋律(旋律が基づくところの音階・旋律線のもつ方向性・音のつながり方・フレーズの作り方・長音階・短音階・無調・我が国の音楽に用いられている様々な音と音とのかかわり合い・世界の諸民族の音楽に用いられる様々な音と音とのかかわり合い), 和声を含む音と音とのかかわり合い(機能 and 和声・我が国の音楽に用いられている様々な音と音とのかかわり合い・世界の諸民族の音楽に用いられる様々な音と音とのかかわり合い), 形式(反復・変化・対照・パターンの連鎖・積み重ね・二部形式・三部形式・組み合わせによる楽曲構成法)などについて知覚する <p>②音色, リズム, 旋律, 和声を含む音と音とのかかわり合い, 形式などの</p>			<p>働きの感じ取って表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動の中で, それぞれの要素の働きを感じ取る ・諸要素が楽曲の感性的側面と深くかかわっていることに気付く ・楽曲の内容をより深くイメージする 				<p>働きの理解して表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽において, 音色, リズム, 旋律, 和声を含む音と音とのかかわり合い, 形式などがどのように働いているかを, 曲想とのかかわり合いにおいてより総合的に理解する ・一つの要素の働きと他の要素との働きをと関連し学習する ・楽曲を総合的に理解する ・音楽表現の多様さを感じ取って表現を工夫する 			<p>曲想の変化を感じ取って表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい速度や強弱を, 他の構成要素や曲全体から受けるイメージとかかわらせる ・一つの曲の中でだんだん強く(クレシェンド)やだんだん弱く(ディミヌエンド), だんだん遅く(リタルダンド), だんだん速く(アッチェレランド)などの変化の幅を工夫する ・工夫によって起こる曲想の変化を意識する ・曲想がどのように変化したかについて, 比喩的な言葉で言い表す ・作曲家によって設定された速度や強弱に対して, なぜそのような速度や強弱が設定されているのかを考える ・楽曲の感性的側面を感じ取る ・楽曲に対する自分のイメージを深め広げる 			<p>曲想の変化を理解して表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽において速度や強弱がどのように働いているかを, 曲想とのかかわり合いにおいて総合的に理解する ・速度や強弱の学習を他の構成要素と関連し, 楽曲を総合的にとらえる ・いろいろな速度や強弱を試してみようか聴く ・体をコントロールして意図した速度や強弱を表現する ・速度や強弱の働きの範囲を広げ深く理解する 		<p>現象や刺激の意識</p> <p>進んで受容</p> <p>統制的選択的注意</p> <p>黙認的反応</p> <p>積極的反応</p> <p>満足して反応</p>																								
	<p>ク①速度や強弱の働きによる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の諸要素である基本的で単純な速度や強弱について知覚する <p>②速度や強弱の働きによる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の諸要素である多様な複雑な速度や強弱について知覚する ・速度や強弱についてのある程度の用語や記号を理解する 			<p>曲想の変化を感じ取って表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい速度や強弱を, 他の構成要素や曲全体から受けるイメージとかかわらせる ・一つの曲の中でだんだん強く(クレシェンド)やだんだん弱く(ディミヌエンド), だんだん遅く(リタルダンド), だんだん速く(アッチェレランド)などの変化の幅を工夫する ・工夫によって起こる曲想の変化を意識する ・曲想がどのように変化したかについて, 比喩的な言葉で言い表す ・作曲家によって設定された速度や強弱に対して, なぜそのような速度や強弱が設定されているのかを考える ・楽曲の感性的側面を感じ取る ・楽曲に対する自分のイメージを深め広げる 			<p>曲想の変化を理解して表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽において速度や強弱がどのように働いているかを, 曲想とのかかわり合いにおいて総合的に理解する ・速度や強弱の学習を他の構成要素と関連し, 楽曲を総合的にとらえる ・いろいろな速度や強弱を試してみようか聴く ・体をコントロールして意図した速度や強弱を表現する ・速度や強弱の働きの範囲を広げ深く理解する 		<p>現象や刺激の意識</p> <p>進んで受容</p> <p>統制的選択的注意</p> <p>黙認的反応</p> <p>積極的反応</p> <p>満足して反応</p>																															
	<p>②速度や強弱の働きによる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の諸要素である多様な複雑な速度や強弱について知覚する ・速度や強弱についてのある程度の用語や記号を理解する 			<p>曲想の変化を感じ取って表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい速度や強弱を, 他の構成要素や曲全体から受けるイメージとかかわらせる ・一つの曲の中でだんだん強く(クレシェンド)やだんだん弱く(ディミヌエンド), だんだん遅く(リタルダンド), だんだん速く(アッチェレランド)などの変化の幅を工夫する ・工夫によって起こる曲想の変化を意識する ・曲想がどのように変化したかについて, 比喩的な言葉で言い表す ・作曲家によって設定された速度や強弱に対して, なぜそのような速度や強弱が設定されているのかを考える ・楽曲の感性的側面を感じ取る ・楽曲に対する自分のイメージを深め広げる 			<p>曲想の変化を理解して表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽において速度や強弱がどのように働いているかを, 曲想とのかかわり合いにおいて総合的に理解する ・速度や強弱の学習を他の構成要素と関連し, 楽曲を総合的にとらえる ・いろいろな速度や強弱を試してみようか聴く ・体をコントロールして意図した速度や強弱を表現する ・速度や強弱の働きの範囲を広げ深く理解する 		<p>現象や刺激の意識</p> <p>進んで受容</p> <p>統制的選択的注意</p> <p>黙認的反応</p> <p>積極的反応</p> <p>満足して反応</p>																															

目 標	認 知											情 意																
	知 識			理 解			応 用	分 析			統 合			評 価		受 容 意 注 意			反 応			価 値 付 け			価 値 の 組 織 化		価 値 あ る い は 価 値 組 織 に よ る 性 格 化	
	具 体 的 知 識	方 法 手 段 に つ い て の 知 識	概 括 や 抽 象 に つ い て の 知 識	言 い 換 え	解 釈	推 量		要 素 の 分 析	関 係 の 分 解	組 織 原 理 の 分 解	固 有 の 伝 達 内 容 の 創 出	計 画 , 実 施 企 画 の 創 出	抽 象 的 な 関 係 性 の 導 出	内 的 証 拠 に よ る 判 断	外 的 規 準 に 照 ら し て の 判 断	現 象 や 刺 激 の 意 識	進 ん で 受 容	統 制 的 選 択 的 注 意	黙 認 的 反 応	積 極 的 反 応	満 足 し て 反 応	価 値 の 受 容	価 値 の 選 択	価 値 を 身 に 付 け る	価 値 の 概 念 化	価 値 体 系 の 組 織 立 て	一 般 化 さ れ た 態 度	人 格 化
鑑賞の 内容構成	構成要素や表現要素からなる音楽の構造的側面を知覚する ・音楽の素材として使われている声（固有の声質や声域、固有の発音法、発声法、歌唱法、演奏者の表現意図）や楽器（音質や音色の特徴、音色や奏法の違い）の種類や特性及びそれらが楽曲にもたらす効果について 理解する （音には、自然音や環境音を含む） ・音楽がどのような仕組み（音楽の諸要素（構成要素・表現要素）の表れ方やその働き）で構成されているかを 知覚する			それらの働きによって生まれる楽曲の雰囲気や曲想などの音楽の感性的側面を感じ取る ・それぞれが生み出している楽曲の雰囲気や曲想と深くかかわっていることを 感じ取る ・反復、対照、変化の構成原理では、実際の作品では壮大で複雑に展開される有様を 知る ・様々な音楽の種類においては、それぞれ特有の展開のされ方を見る			・諸要素それぞれの原理的な働きに注目し、理解しながら、ある特定の要素に焦点をあて音楽の仕組みを 聴き取る ・諸要素の働きを感じ取ると同時に、それによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を 味わう ・音楽を地域や時代、あるいは作曲家などの特徴と 関連させる ・様々な音楽に 触れる ・様々な音楽を聴き、新しい音楽表現を知ったり 学んだりする ・他の芸術とのかかわり方を通して、その芸術全体についても 鑑賞する ・音楽全体の特徴や特質を感じ取ったり理解を深めたりする	以上の内容を、音楽の背景となる風土、文化・歴史などの文化的側面とかかわらせて感じ取ったり理解したりする																				
鑑賞	ア①声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働き、 ・音楽の構成要素 声や楽器の音色（声・楽器の種類によって固有な音色）、リズム、旋律（音階（長音階・短音階・調性のないもの・我が国及び音楽の世界の諸民族の音楽における様々な音階）、音とのかかわり合い（一つの旋律をもとにして発展させた多声的な音楽・点としての音と音とのかかわり）、形式（反復・変化・対照等の構成原理を組み合わせてできていることを知る）などの働きについてその働きと効果を知覚する ②声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きと ・諸要素と曲想との関わりをより細部にわたって 知覚する			それらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴く ・音色を変化させたり組み合わせたりすることにより豊かな響きが生まれることを 感じ取る ・リズムや拍子の特徴、リズムパターンの反復や変化によって生まれる楽曲の雰囲気や曲想を 感じ取る ・非拍節的なリズムでは、自由な動きや流れるような動きを 感じ取る ・様々な旋律を聴き取り、それがもたらす美しさや曲想を 感じ取る ・西洋音楽における機能と和声にのみならず、我が国及び世界の諸民族の音楽にみられる様々な音と音とのかかわり合いによって生まれる楽曲の雰囲気や曲想を 感じ取る ・構成原理組み合わせの効果や曲想を 感じ取る ・音楽の構成要素と楽曲の持つ雰囲気や曲想とのかかわりを意識して 聴き取ったり聴き分けたりする ・音楽の表現と構成要素が密接に譜にきや曲想と結びついていることに 気付く ・音がどのように鳴り響いているかに 耳を傾ける ・構成要素の働きや特徴を感じ取りながら、それぞれの要素のかかわり合いがどんな音楽の雰囲気や曲想を生み出しているかに 気付く				それらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴く			・音楽の多様性を感じ取り、その背景となる文化や歴史についてかかわらせて 聴く																	
第1学年 ①、 第2学年 及び 第3学年 ②の 内容	イ①速度や強弱の働き ・表現要素である速度と強弱について 知覚する			及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴く ・速い、遅い、遅いの速度のほか、徐々に変化する速度についても聴き取り、特有の雰囲気や曲想を 感じる			・速度や強弱が生み出す雰囲気や曲想によって、緊張や弛緩、動的や静的、雄大さや繊細さ、安堵感や焦燥感など様々な個人のイメージや感情を自分なりの言葉、図形、動作などで表す ・感じ方や表し方は個人によって違いがあることに 気付く																					

目 標	認 知												情 意																			
	知 識			理 解			応 用	分 析			統 合			評 価		受 容 注 意			反 応			価 値 付 け			価 値 の 組 織 化		価 値 有 る い は 価 値 組 織 に よ る 性 格 化					
	具 体 的 知 識	方 法 手 段 に つ い て の 知 識	概 括 や 抽 象 に つ い て の 知 識	言 い 換 え	解 釈	推 量		要 素 の 分 析	関 係 の 分 解	組 織 原 理 の 分 解	固 有 の 伝 達 内 容 の 創 出	計 画 , 実 施 企 画 の 創 出	抽 象 的 な 関 係 性 の 導 出	内 的 証 拠 に よ る 判 断	外 的 規 準 に 照 ら し て の 判 断	現 象 や 刺 激 の 意 識	進 ん で 受 容	統 制 的 選 択 的 注 意	黙 認 的 反 応	積 極 的 反 応	満 足 し て 反 応	価 値 の 受 容	価 値 の 選 択	価 値 を 身 に 付 け る	価 値 の 概 念 化	価 値 体 系 の 組 織 立 て	一 般 化 さ れ た 態 度	人 格 化				
	②速度や強弱の働き			及びそれらによって生み出される曲想の変化を理解して聴く ・細部にわたって詳しく聴き取る ・微妙な変化に気付く ・動きや変化が生み出す曲想の特徴と効果を理解する ・同じ楽曲であっても、戦争社の違いや意図によって曲想は異なり、音楽の表情は大きく変わることなどについて理解して聴き取る ・構成要素と表現要素とのかかわりと、それらが全体として曲想を生み出していくことを理解する ・生徒自身が表現活動や鑑賞活動を通して変化や多様さを、体験的に理解する ・ある要素や仕組みについて対照的な教材を用いて比較する																												
	ウ①我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から ・身近にある郷土の伝統音楽に親しむ ・アジア地域の諸民族の音楽をいくつか取り上げて、その旋律やリズムの特徴、楽器の音や構造、奏法、合唱の仕方など、さらに声と楽器との関係に 注意 する			音楽の多様性を感じ取って聴く ・多様な音楽に対してよさや美しさを感じ取る ・我が国の伝統的な音楽のいくつかを 聴き比べ る ・それぞれの特徴を 聴き取る ・我が国の伝統音楽に用いられている楽器や声の表現と世界の諸民族のそれとの相違点や共通点を感じ取る ・多様な音楽の表現方法や仕組みを 比べ る ・それぞれの音楽における特徴や美しさを感じ取る ・世界の様々な音楽に見られる普遍的な特徴、例えば人間は歌を歌うことや楽器をもつこと、舞踊に音楽を付けることなどに 気付く																												
	②我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から			音楽の多様性を理解して聴く ・我が国や諸外国の多様な音楽文化についての理解を深める ・私たちの身近にある郷土の伝統音楽に 親しむ ・我が国の古典の作品を見たり 聴き比べ たりする ・世界の諸民族の音楽や舞踊劇を鑑賞して、そこに用いられている歌や語り、楽器の音色や奏法、合奏の仕方に 注意 する ・歌と語りにおける発声の仕方や声の技法、声と楽器との関係に 注意 する ・それぞれの特徴を 聴き取 ったり 聴き分け たりする																												
				エ①音楽をその背景となる文化・歴史とかかわらせて聴く ・音楽をそれが生まれた環境や背景を 想像 したり 理解 したりする ・音楽を聴くときに、その音楽が成立した状況や事情について、 想像 したり、 知 ったりする ・背景となる文化・歴史からの理解を深める																												
				②音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどから、総合的に理解して聴く ・音楽の時代や地域を広げ、生徒自身がその音楽の背景となる文化や歴史を 調 べる ・それぞれの音楽の特徴や特質を、諸要素や曲想、表現の仕方などから 感 じ取る ・音楽の生まれた時代や地域の文化・歴史と 結 びつける ・音楽を巡って幅広く多角的な視野から 理 解し、 把 握する																												
													・我が国や世界の諸民族の音楽について関心をもつ ・異文化の音楽に触れることの楽しさを体験する																			